

国宝【山鳥毛】購入について

国宝【山鳥毛】購入にかかる目標金額

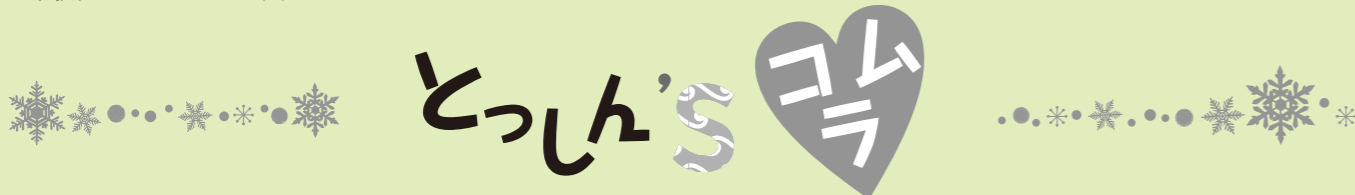
平成31年			➡	令和元年12月修正		
詳細	金額	目標金額		詳細	金額	事業費
刀購入予算	5億円	6億円	刀購入予算	5億円	5億1300万円	
名刀博物館改修費	1億円		山鳥毛展示ケース	1300万円		

国宝【山鳥毛】の購入については、購入を表明してから、賛否両論たくさん意見を伺いました。そして、今議会に国宝【山鳥毛】の購入目標額の引き下げが提案され、可決しました。以前は、刀5億円以外に、国宝を所有するための博物館の改修費が1億円と説明がありました。ここにきて、文化庁に相談した結果、国宝を持つには展示ケースだけでかまわないといわれたので、目標額を刀と展示ケースを合わせて、5億1300万円に下方修正するという報告がありました。ただ、以前の国宝所有のための条件として、国宝専用の搬入口と収蔵庫と展示室の間に、両者の温度湿度にならすための中間の前室が必要と聞かされていました。

問 今回、展示ケースのみでいいとのことだが、これらの条件はどうなるのか？
 答 二期工事として、国宝公開承認施設への改修を、三期工事で国宝専用の搬入口の改修を行う。
 問 工事費用の見積もりは。
 答 二期工事が、2億2千万円になります。との回答でした。

くさかとしこの主張

1億円 - 1300万円 = 2億2千万円 + α(三期工事費用)
 この計算は、どう考えてもおかしい。小学生でもわかる計算ではないでしょうか。目標額を下げたい気持ちは分かりますが、つじつまが合いません。今後しっかり、追及していきます。



辻 維周 (ツジ マサチカ) 先生は、岡山理科大学 理学部 動物学科の准教授で、牛窓が気に入り、牛窓を終の棲家にしたと移住されている先生です♪

岡山理科大学の辻先生にご縁をいただいて、12/22 から磯上のグリーンタウンの集会所で実証実験を始めて1ヵ月になります。辻先生は、鳥獣対策の研究をされていて、超音波で鹿やイノシシを追い払う機械の検証をされています。12/22 から、鹿ソニックという、撃退超音波装置を、磯上の集落柵が道で途切れていて、出没がどうしても防げなかった所に設置しています♪効果がつかめなかったのが、先日、人感センサー検知で自動録画を開始する無人カメラを設置しました。まだ、数日しかたっていませんが、画像を確認した限りでは、鹿もイノシシも写っていませんでした。しばらく、実験を続けていきますが、ぜひとも、同じように困っている他の地域のためにも、効果が立証できるよう、頑張って協力していきます！

今回も私の拙い行政報告にお付き合いいただきまして、ありがとうございます。ぜひ皆様の感想等、何かの折に声をかけてやってください。よろしくお願いいたします。



皆さまには本当にいつも、温かく見守っていただき、そして励ましていただき本当にありがとうございます。今年の子年です。「子」の字には増えるという意味があり、「子孫繁栄」の年になるといわれます。ネズミにあやかり、繁栄の年になることを願います。そんな子年が皆さまにとって、繁栄の年になるよう、そして元気で頑張れる一年になりますよう、お祈り申し上げます。亥年は終わりましたが、私は今まで通り、【とっしん】で頑張っていきたいと思います。今年もよろしくお願ひ致します。私はいつも、皆さまの声を市政に届けていきたい、その思いでいます。その思いは、今もこれからも変わることはありません。これから、ますます寒くなってまいります。皆さまにはどうかご自愛ください。

今回の一般質問

- (1) 防災について
- (2) 新しい自治組織制度について
- (3) 支援が必要な子どもたちの学習環境について

2019年 山陽新聞 東備版に12月6日 掲載されました。

(2) 新しい自治組織制度について
 2018年に、新たな枠組みでのまちづくりや地域課題の解決に取り組む、まちづくり協議会制度が提案され、牛窓は区単位、邑久はコミュニティ単位、長船は大字単位での組織が提案され、資金的支援として、『まちづくり応援交付金』が新設されるとの説明がありました。そして、2019年度に3協議会 2020年度に6協議会 2021年度に10協議会 2022年度に15協議会 2023年度には、すべての20協議会の移行完了を目指す説明を受けました。そして、今年度まちづくり応援交付金として、440万円の予算が計上されています。

日下俊子氏は、住民が主体的に地域の課題解決などに取り組む地域自治組織「まちづくり協議会」の制度設計について、総合政策部長は、「牛窓町鹿忍地区から相談があり、2019年度内の組織立ち上げに向け、サポートしている。鹿忍地区がモデルとなるよう、事業計画の立案など、きめ細かい支援に取り組みたい」と答弁した。まちづくり協議会は、13年度の有識者会議「市まちづくり協議会」の提言を受け、市が導入に向けた制度設計に取り組んでいる。

くさかとしこの主張

牛窓は区制度、邑久はコミュニティ制度、長船は大字と、確かに一番とつきやすい枠組みと言えます。統一性に欠けるとも言えます。こういった新しいことを始めるのに、大事なのは、とつきやすさではないと思います。私は一番大事なのは、公平性・平等性ではないかと思っています。そして、何より大切なのは、市民への説明・コミュニケーションだと思います。しっかり市民に説明し理解を得たうえで、始めるべきだと思います。

令和2年1月20日発行
 発行責任者 瀬戸内市議会議員

くさか としこ



〒701-4273
 瀬戸内市長船町磯上 569
 TEL/FAX 0869-26-6420
 携帯 TEL 090-5702-8336
 ホームページ
<http://www.kusaka-toshiko.jp/>

【くさかとしこ】の一般質問を通して

(1) 防災について

市は、災害時に市民が自主的に開設し、運営する届け出避難所の仕組みを始めている。「届出避難所」という制度で、市民が自主的に開設する集会所等の避難所を登録申請してもらい、この「届出避難所」に対して支援を行うことにより、避難所数を増やしたいとしています。

届出避難所として登録していれば、市民の判断で避難所の開設が可能になるこの制度は、素晴らしいと思います。

くさかとしこの主張

この届け出避難所は、職員の派遣は行わない、開設・運営にかかる経費は組織等の負担とする、とされています。

少し冷たいのではないのでしょうか。

市民が協働で届出避難所を開設して、地域で助け合って地域の人を守るのに、市は自分たちで勝手にやってくださいとっているように聞こえます。

避難所を開設するようなことは、そんなに毎日あることではありません。届出避難所の母体となる組織が責任をもって開設するわけで、むやみやたらに開設するものでもありません。そこには、やはりなんらかの市からの援助が必要です。

(もちろん、市から、支援物資や避難情報等の支援はあります。)

市長から、今回の私の質問に対して、

『あくまで、公助としての役割ではなく、自助・共助として考えていただきたい。』

との答弁がありました。少し、がっかりです。

届出避難所の開設に、補助金の交付であるとか、今後予定されているまちづくり交付金の中で考える等の援助が必要だと思います。

今後粘り強く訴えていきます。

今回の届け出避難所に対しては、要綱が策定され、ホームページにもアップされていますが、あまりに市民への周知が不十分と言わざるを得ません。今後、防災研修会、広報等を通じて、しっかり市民に周知を図るよう、お願いしていきます。

(3) 支援が必要な子どもたちの学習環境について

小中学校の生徒数とクラス数 (R1.11 現在)

	生徒数(人)	通常学級数	支援が必要な生徒数(人)	支援学級数	空き教室数
牛窓東小学校	87	6	4	2	0
牛窓西小学校	67	6	8	2	0
牛窓北小学校	56	6	0	0	0
邑久小学校	713	23	47	7	0
今城小学校	167	7	13	2	0
裳掛小学校	37	4	3	1	0
美和小学校	52	6	0	0	0
国府小学校	283	11	19	4	0
行幸小学校	359	12	20	4	1
牛窓中学校	115	3	3	2	0
邑久中学校	426	12	10	2	0
長船中学校	339	10	12	2	0

※「生徒数」には、「支援が必要な生徒数」を含めています。 ※「空き教室数」とは、完全な空き教室の数です。

表を見てわかるように、近年支援の必要な子どもたちの学級が増えています。

以前は支援学級という概念がなく、そのようなクラスは用意されていません。支援学級は、落ち着いた学習環境がより必要な MAX8 人のクラスです。

この時代が変わり、教育のニーズが変わってきている今、支援学級の対応は学校にとって喫緊の課題といえると思います。

昔の学校には想定されていない学級のため、どこの学校も支援学級は、準備室や教材室など、学級ではない場所を工夫して使用しています。

以前より、普通学級数が減っている学校は、あまった普通学級を利用して支援学級に対応できていますが、学級数の減っていない学校は、どこも支援学級の確保に四苦八苦しているのが実情です。

今後、普通学級と支援学級の変遷をしっかりと考慮する必要があると思います。

くさかとしこの主張

来年長寿命化の改修が予定されている国府小学校ですが、お金をかけて手直しをするときにこそ、必要な支援学級を増築すべきではないのでしょうか。

今の多目的教室をいらうとか、食堂をいらうとか、学校には、多目的教室も食堂も必要な機能です。

そして何より、大きな部屋を仕切って使うような環境自体が、支援学級にはなじまないと思います。支援学級には、支援学級としてきちんと準備された部屋が必要です。

せっかく、大きなお金をかけて工事をするときにこそ、ニーズに合った、増築が必要だと考えます。

今議会に行幸小学校の大規模改修工事の契約案件が提出されました。

私は、この議案に八日市の竹原議員と二人だけ反対しました。

行幸小学校は、すでにプレハブ校舎も建ち無理筋な話ではありますが、地域の人の気持ちを考えると反対せずにはいられませんでした。

地域からは、行幸小学校に対して、一番古い耐震性に不安のある北棟だけは、建替えて三階にして欲しいと要望書が出されています。

地元市民の強い要望がでていながらもかわらず、市は、

『学校と防災は関係ない』とか

『行幸小学校は、二階以上の水が来ることはない』

という説明ばかりでした。

行幸小学校の大規模改造は、当初6億円の予定でしたが、今では17億円にもものぼる工事となっています。このような多額なお金をかけるのであれば、もう少し地域や保護者の意見をきくべきだと思います。

令和元年第5回(11月)定例会 賛否の公表

○=賛成 ●=反対 欠=欠席 —=議長職(議長は採決に加わりません)

議案名	議決年月日	採決結果	日本共産党 瀬戸内市議員		改革				公明党瀬戸 内市議員		鼎の会		瀬戸内市民の会				創流クラブ		無党派		賛成	反対			
			厚東 晃央	島津 幸枝	廣田 均	小谷 和志	日下 敏久	石原 芳高	河本 裕志	高間 直美	角口 隼一	布野 浩子	小野田 光	原野 健一	平原 順二	馬場 政教	竹原 幹	日下 俊子	岡 國太郎	室崎 陸海					
議案第99号 行幸小学校校舎大規模改造I期工事に伴う工事請負契約の締結について	R1.12.19	原案可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15	2

